宮崎公立大学生の今を伝える

MMU SHiP

エムエムユー
シップ

開学２０周年特別企画　変わるもの、変わらないもの

PART1「新学長　林弘子の素顔に迫る」　PART2「辻研究室　プチ★ホームカミングデイ」

世界へ漕ぎだせ！視界よしっ！しっぽり語る。　中国　蘇州大学
CIRCLE DE GOSHiP　片道２０分圏内の小宇宙
連続リレーエッセイ いいだしっぺ　学生が市民講座を行うサークル
KYO-SHiP　川瀬 隆千 教授「歴史ドラマから学ぶべきもの」
@MIYAZAKI　MMU Students with Miyazaki TV
未来の compass　宮崎日日新聞社　大谷 公也さん
REAL VOICE　私の夢は○○！
MMU NEWS PLUS

Miyazaki Municipal University Communication Magazine "MMU SHiP"

vol.04

今回の表紙　特別企画で集合した辻研究室の歴代＆現役ゼミ生（P.6 へ）

２０１３年に開学２０周年を迎えた宮崎公立大学。この記念すべき年に編集された今回の『MMU SHiP』では、本学の「変わるものと変わらないもの」をテーマに、いつもの特集企画よりも大ボリュームで掘り下げます。その企画の１つ「プチ★ホームカミングデイ」にご参加いただきました、辻教授と歴代＆現役ゼミ生の集合写真です。

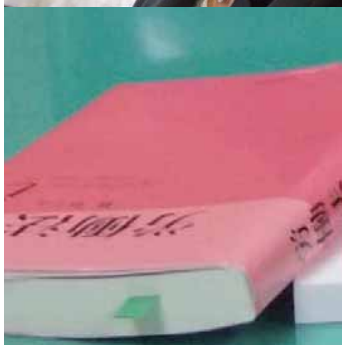
やわらかな知性を身につける。
宮崎公立大学
MMU LIBERAL ARTS

20th ANNIVERSARY

開学２０周年特別企画
変わるもの、変わらないもの

PART 1

新学長 林 弘子の素顔に迫る



学長に就任されてから9月で半年になりますが、どのようなご感想をお持ちでしょうか

人生においても、宮崎はまったく初めての土地だったのですが、見えざる手に導かれてといいますか、縁あって学長に就任させていただくことになりました。

宮崎公立大学（以下、MMU）に来てまず感じたことは、キャンパス内の自然が豊かで、とても丁寧に手入れがされているなぁということです。他大学でこれだけ整備が行き届いているところはなかなかないですよ。学生の皆さんには当たり前の、日常の風景かもしれませんが、本当にこの大学のキャンパスは素晴らしいと思います。

また、「異文化実習」*の実績やTOEICなどのスコアを拝見し、学生の皆さんがとても頑張っていらっしゃる印象を受けました。まだ学生の皆さんとじっくりお話することができていないので、今後積極的に関わる機会を設け、皆さんのことを知っていきたいですね。

＊「異文化実習」：MMUの海外短期研修科目で、約1カ月間、学術交流協定校等での研修に参加するもの。

今までどのようなご経歴を歩まれてきたのでしょうか

元々、色彩やデザイン等に興味があり、美術系の大学を目指していました。しかし、競争倍率も激しく、大変狭き門であったことから、一浪して悩んだ末に法学部への進学を決めました。希望とは異なる進路となったためか、学び始めた当初は、法律の勉強がものすごく面白くなかったことを覚えています（笑）。そのような中で、恩師・林迪廣（みちひろ）教授の「労働法」という授業に出会い、そこから少しずつ法律に興味を持ち始めました。その後、林教授の研究会に入り、知識を深めていく中で、「大学院で労働法を学ばないか」と教授から誘われたことが、研究者としての道を歩むきっかけになりました。

大学院の修士号を取得した後、交換留学でアメリカに渡り、さらに本格的に労働法について学びました。このとき出会ったのが、コーネル大学で女性労働問題をご専門にされていたAlice・H・Cook教授で、私の育ての母ともいえる方です。1998年に94歳で亡くなられるまで先生と過ごした歳月は、私の人生に本当に大きな影響を与えてくれましたね。

前述の2名の恩師だけにとどまらず、私は本当に出会いに恵まれた人間だと思います。弁護士としての仕事や大学での教育・研究を通して出会ったたくさんの方々や素晴らしい学生たちの支えによって、モチベーションを保つことができ、私が私としてやってこれたのだと実感しています。

どのようなスタンスでお仕事に取り組まれるのでしょうか

私は、常に必死でガツガツ働くという訳でなく、「頑張らない程度に頑張りましょう」ということを常々頭に入れています。頑張り過ぎると、余裕が持てなくなり、楽しいと思えないと思うんです。自分自身が楽しくなければ、頑張っても辛いだけですし、当然良いものを創り上げるのは難しい。逆に楽しいと思えるだけの余裕を持つことが、新しい発想を促し、さらに良いものを作り上げていくことに繋がるのだと考えています。

あとは、「大変」という言葉を口癖にしないことですね。大変と感じながら物事を進めようとすると、変に自分を追いつめてしまいかねません。例えば私のように大学の学長と研究者という2つの異なる職務を両立させるのは、周りから見れば「大変そう」と見受けられるかもしれませんが、自分でそのように思わないことが、この2つを両立できている理由の一つです。

宮崎公立大学　学長
林 弘子　プロフィール

学歴
1966年3月　九州大学法学部法律学科卒業
1968年3月　九州大学大学院法学研究科修士課程修了
1970年6月　米チュレーン大学ロースクール卒業（フルブライト交換留学生）

学位
1968年3月　九州大学法学修士
1970年6月　LL.M（Master of Laws）取得

資格
2003年4月　弁護士（日弁連・福岡県弁護士会）

職歴
1968年4月　九州大学法学部助手
1976年1月　米国イエール大学ロースクール・フルブライト上級研究員
1979年4月　熊本商科大学（現・熊本学園大学）教授
1982年1月　熊本商科大学附属海外事情研究所長
1982年8月　米国コーネル大学労使関係スクール・カリフォルニア大学ヘイスティングス・カレッジ・オブ・ロー・ACLS（American Council of Learned Societies）研究員
1985年4月　福岡大学法学部教授（労働法）
1987年4月　福岡大学大学院法学研究科博士課程前期担当教授
1992年4月　福岡大学大学院法学研究科博士課程後期担当教授
1993年9月　米国ラトガーズ大学労使関係スクール・ニューヨーク大学ロースクール客員教授
1998年8月　米国コロンビア大学ロースクール・ニューヨーク大学ロースクール・フルブライト上級研究員
1999年7月　Asia-America Institute in Transnational Law 教授　於香港―米国デューク大学ロースクール・香港大学法学部主催
2003年4月　弁護士法人・女性協同法律事務所客員弁護士
2005年4月　福岡大学法科大学院教授（兼担・労働法）
2005年9月　ハワイ大学ロースクール客員教授
2013年4月より　現職

開学２０周年特別企画
変わるもの、変わらないもの

HOT TOPIC
新たな一歩　２０１３年６月１日を追う

今後も変わらず国際交流推進！
スターリング大学との学術交流協定を締結

２０１３年６月１日、MMUの講堂にて開学２０周年記念式典が開催されました。その式典において、英国・スターリング大学から Gerry McCormac 学長、Kerry Bryson 氏、関妙子教授をお招きし学術交流協定調印式が行われ、林学長とともに協定書の署名を行いました。この協定は、主にMMUの学生をスターリング大学に公費派遣留学生や短期研修生として派遣することに関するものです。MMUの国際交流がますます充実していくことを期待してください。

今後も変わらず地域のために！
講演会「地域に根差す公立大学の未来」開催

記念式典の後、講師に一般社団法人公立大学協会の木苗直秀会長をお招きし、「地域に根差す公立大学の未来」というテーマでお話いただきました。活発な地域貢献活動に取り組んでいる静岡県立大学の学長でもある木苗会長。大学界全体から見る公立大学の立ち位置から、静岡県立大学での具体的な事例紹介まで、今後も地域貢献に注力する本学にとって刺激に満ちた４０分となりました。MMUもこれまで以上に地域に開かれた大学を目指して、様々な取組みを行っていきます。

これまで以上に情報発信！
コミュニケーションマーク策定＆ウェブサイトをリニューアル

２０周年を期に、コミュニケーションマークを策定し、ウェブサイトをリニューアルしました。コミュニケーションマークは、MMUのブランド価値をより高めるために、あるべき姿のイメージを構成員の間で共有すべく、目指す方向を表現する手段の１つとして、作成しました。また、ウェブサイトは、広報の中心的役割を担うツールとして位置づけ、情報の網羅性と分類を見直し、効果的に発信できるように再構築しました。MMUの魅力を伝えるツールとして、積極的に活用していきます。

２０年　早わかり！　MMU HISTORY

1988 年 6 月　宮崎大学教育学部跡地へ新大学設置の意向を宮崎市議会で表明
8 月　大学設置検討のため「宮崎市高等教育懇話会」設立
1989 年 2 月　高等教育懇話会は新大学設置の必要性を認め、報告書を提出
9 月「宮崎市高等教育検討委員会」設置
1990 年 3 月　高等教育検討委員会は新大学像に関する報告書を提出
9 月　宮崎市「大学基本構想」を発表
1991 年 7 月　宮崎市東諸県広域一市六町による「宮崎公立大学事務組合」設立
8 月「宮崎公立大学設置準備委員会」設立
1992 年 1 月　宮崎大学教育学部跡地購入、宮崎公立大学新築工事着工
4 月「大学設置認可申請書」を文部省へ提出
7 月「宮崎公立大学設置認可申請に係わる関係書類」を文部省へ提出
12 月　文部省から大学設置認可、学生募集開始
1993 年 1 月　推薦入学試験実施（初年度）
3 月　一般入学試験実施（初年度）
4 月　宮崎公立大学開学（1 日）、第 1 回入学式挙行（12 日）
6 月　開学記念日（1 日）
9 月　オールドドミニオン大学（米国）と学術交流協定を締結（9 日）
1994 年 2 月　私費外国人留学生特別選抜試験実施（初年度）
4 月　教職課程設置
1995 年 2 月　帰国子女特別選抜試験実施（初年度）
4 月　交流センター完成
5 月　蘇州大学（中国）と学術交流協定を締結（26 日）
蔚山大学校（韓国）と学術交流協定を締結（29 日）
1996 年 2 月　社会人特別選抜試験実施（初年度）
1997 年 3 月　第 1 回卒業式挙行（25 日）
3 月　宮崎公立大学同窓会「なな会」発足
1998 年 4 月　新教育課程への移行開始
2000 年 1 月　中国引揚者等子女特別選抜試験実施（初年度）
9 月　ワイカト大学（ニュージーランド）と学術交流協定を締結（27 日）
2002 年 4 月「宮崎公立大学 10 周年記念事業準備室」設置
語学教育の更なる充実を図るため CALL システムを導入
10 月　評議会を新たに設置
2003 年 5 月　10 周年記念式典開催
2004 年 9 月　マラスピナ大学（カナダ）と学術交流協定を締結（2 日）
※同大学は 2008（平 20）年にバンクーバーアイランド大学に改称
2005 年 4 月　宮崎公立大学地域研究センター設置
11 月　宮崎公立大学凌雲会館完成
2007 年 4 月　公立大学法人宮崎公立大学を設立し、宮崎公立大学の設置者とする
2009 年 3 月　認証評価に係る「自己・点検評価報告書 2008」を発行
2010 年 3 月（財）大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」判定を受ける
2011 年 3 月　蔚山科学大学（韓国）と学生交流に関する了解覚書を締結（1 日）
※同大学は同年、蔚山科学大学校に改組。
4 月　宮崎公立大学事務組合の解散、法人の設立団体が宮崎市となる
10 月　就職支援室・教職支援室を設置
2012 年 3 月　学生と職員の共同制作による新広報誌『MMU SHiP』創刊
2013 年 6 月　開学 20 周年記念式典開催
スターリング大学（英国）と学術交流協定を締結

学長として力を入れていきたいことや意気込みなどをお聞かせください

あまり意気込まないんですよ（笑）。今お伝えしたようなスタンスなので、極力自然体で過ごしていきたいですね。

大学に関しては、20周年という節目を迎え、これから新たに進んでいくMMUの土台・基礎をしっかり補強したうえで、今後この大学に必要不可欠となる制度等をきちんと整えていきたいと考えています。

また、教育の部分に関しては、グローバル人材の育成をさらに強化していくのはもちろんのこと、学生の皆さんが4年という歳月を過ごすうえで、「大学卒業後、どのような道を選択し、進んでいくのか」というビジョンを明確にしていけるような教育をもっと推進していきたいと思っています。今、私たちが生きる社会は、国際情勢・経済情勢の変化が激しく、その中でほとんどの人は生活のために働かなければいけません。そのような社会で生き抜いていくための準備として、将来何になりたいかを確立させるための教育があってもいいのではないかと考えています。

さらに、地域貢献についても、今までとは違う、「MMUらしい」手法を検討し、積極的に推進していきたいですね。

最後に、学生に対してメッセージをお願いします

どのような授業でも、キラッと光る瞬間が必ずあるものです。学生の皆さんには、興味のない分野であっても、是非真剣に授業を受けていただきたいと思います。私が海外留学をすることになったのは、大学の授業でたまたまある教授から留学の素晴らしさに関する話を何度も聞き、興味が湧いたことがきっかけです。留学をしていなければ、今とは全く違う人生を歩んでいたかもしれません。このように、授業の中で様々なきっかけを得ることで、視野が広がり、新たな道が拓けていくのです。興味がない分野の授業であったとしても、その中のちょっとした部分に皆さんの能力を開花させる小さな種が潜んでいますので、その瞬間を見逃さないよう、休まずに受講することが大切です。

次に、「自分は何をどうすればよいのかわからない」という方は、目的をはっきりさせることから始めましょう。自分が何をしたいのか曖昧だからわからなくなり、悩むのです。その目的を明確にすれば、自ずと自分のするべきことが見えてきます。

さらに、「人と出会うチャンスを得るための努力」を惜しんではいけないということです。私を含め、人は若いうちに自身にとって決定的な意味のある人たちと必ず出会っています。その出会いに気付くことができるか否かはとても重要です。大学は、そのような出会いがたくさんある場所です。探求心を忘れず、自分自身を磨くことで、その出会いの機会は生まれていきます。

MMUの学生の皆さんは、今のままでも十分素晴らしいと思いますが、さらに皆さんが自身のステップアップを望むのであれば、知的に己を磨く・高めていくことが大切になってきます。皆さんに「知」を手にしてほしい、そして「知を手にする面白さ」に気付いてほしい、それが皆さんに対する私のメッセージです。

■記事　山本 麻育子（3年　社会学ゼミ）
古川 瑠衣（3年　中国文化論ゼミ）

突　撃！　林学長に　一問一答

Q. 誕生日はいつですか
A. 2月26日です。岡本太郎さんと同じ日なんですよ。

Q. 食べ物の好き嫌いはありますか
A. 嫌いなものは、特にこれといってありません。好きなものは…ワイン。あと、宮崎牛、あれは美味ですね。

Q. 趣味を教えてください
A. 翻訳やエッセイを書くこと。言葉を作り出す過程が好きです。他言語に言い換える際の言い回しなどを考えるのが楽しいですね。あとは庭作りも好きです。

Q. 好きな有名人は
中島らも（作家）さんです。あの独特な世界観がいいですね。

Q. 犬派ですか、猫派ですか
A. 猫派ですね！実は雑誌『猫の手帖』の創刊号に愛猫の写真と私のエッセイが掲載されたんですよ。

Q. 好きな本や作家は
A. なんでも読みますよ。
■愛読書リスト
・夏目漱石　『こころ』『それから』『門』『虞美人草』
・林芙美子　『放浪記』
・幸田　文　『流れる』
・南方熊楠（博物学者、生物学者、民俗学者）の著書
・池谷裕二（脳研究者）の著書
・ジャン＝アンリ・ファーブル『昆虫記』
・ガヴィーノ・レッダ　『父 パードレ・パドローネ ある羊飼いの教育』
・ゴルダ・メイア『ゴルダ・メイア回想録―運命への挑戦』（翻訳者は私です）等

Q. 好きな言葉をお願いします
A.「あらゆるものがなくなっても、自分自身を試す機会だけは、絶対になくならない」

開学２０周年特別企画
変わるもの、変わらないもの

PART 2

辻研究室

プチ★ホームカミングデイ

１９９３年の開学以来、数多くの学生が社会へと羽ばたき、多方面で活躍しています。特別企画ＰＡＲＴ２では、開学時から本学で教鞭をとられている辻利則教授によるネットワークゼミの卒業生、在学生をお招きして開催した座談会「プチ★ホームカミングデイ」の様子をお伝えします。
情報・教育・福祉…それぞれの分野で活躍している卒業生の方々がどのような大学時代を過ごしたのか、そしてこれから社会人になる在学生たちが今どのような大学生活を送っているのか、この特別企画のテーマ「変わるもの、変わらないもの」をテーマに、夕日が差し込む研究室で語り合っていただきました。

一から構築していったゼミ創世記

辻　私も、ＭＭＵに助手として入ってきてから今に至るまで、振り返ればいろいろな思い出がありますが、久しぶりに大学に来てくれた卒業生の皆さんはどうですか？

野崎（以下、野）　今日は久しぶりに辻先生の研究室を訪れて、とても懐かしい気分です。研究室の場所も当時のままで。ゼミの思い出といえば、ちょうど私が大学にいた頃に先生がゼミ生の受入れを開始されたんです。先生のゼミは人気が高くて、争奪戦でしたね（笑）。
ゼミに入ってからは、ゼミ生同士の仲が良かったこともあって、部活のように毎週月曜日の午後に研究室の隣でゼミをしていました。何かしら出来上がったものの精度を上げていくというより、一から皆で構築していったという記憶がありますね。

辻　そうですね、最初はそんな感じでした。飯干君はどうでした？

飯干（以下、飯）　私がゼミにいた頃は、フィールドワークが多かったですね。宮崎で災害が起きた時に無線がどこまで届くのかについてプレステーション・ポータブルやｉＰｏｄ ｔｏｕｃｈを使って実験したり、小学校とテレビ回線をつないで大学教授の英語の授業を行ってもらったり。徐々にネットワーク環境が充実してきた時代だったので、それらをどのように利用していくかを考えていましたね。そして…卒論がやっぱり大変でした。もちろん、一番大変だったのは僕らに付き合ってくださった先生だと思いますが。

辻　そうそう。卒論は大変だったよね。締切ギリギリで間に合ったなんてこともあって。だから今は締切前日までに仕上がるようにしているんですよ。小嶋君はどうだった？

小嶋（以下、小）　私は、辻先生と一緒に奈良先端技術大学院大学に訪問したことがとても思い出に残っています。あとは中別府先生とお話したこと、ですかね。昔からとてもアツい先生でした。

佐藤（以下、佐）　中別府先生は今もアツいですね。

辻　私も小嶋君と一緒に奈良に行ったことはよく憶えています。中別府先生も本当に変わらず熱いですね。いろんな先生がいて、授業でもさまざまなことを学んだと思いますが、大学で過ごした４年間で得たものは社会に出てからどのように生きていますか？

大学で自主性を養った

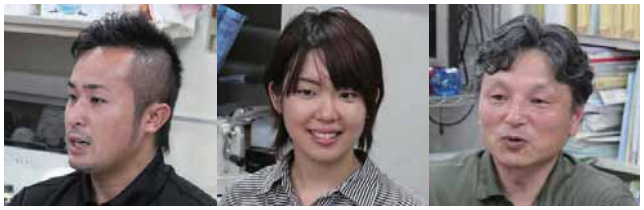
飯　そうですね、私の場合はゼミやその他のさまざまな活動を通して、自主性を養えたと思っています。今、教師をしているんですが、私自身が教えていく上でも生徒には自主性をもってもらいたいと思いながら取り組んでいます。

野　確かに物事に進んで取り組む姿勢は身に付きましたね。社会に出てから、大学で学んだ「知識」を直接生かす機会は少ないものの、そうした姿勢や、ものの見方・捉え方という意味で仕事に生かせているなあと感じることが多いです。

築地（以下、築）　私はこれからの就職活動に向けて、これまでの大学生活の中で『自分が何をしてきたか』を考えているところなんですが、今の先輩のお話を聞いて、確かにそういう姿勢を身に付けているような気がします。

小　私は病気で声をはっきりと出せないのですが、その経験から福祉に関する研究に没頭しました。障がいを持つ方がどのようなことに困難を感じるのか、その追究が今は「分かりやすく相手に伝える」技術として、役に立っていると思います。私の職場ではパソコンに詳しい人が少ないことも多く、大学で学んだ情報の知識も生かしながら、相手に分かりやすく伝えるように努めています。

辻　学業に限らず、大学生活での様々な活動を通して自然と身に付くものは多いですね。皆さん自身が努力した成果だと思いますが、そうした成果につながるという、ＭＭＵならではの土壌も一役買ったのではないでしょうか。



大学で学んできたことって、
今の仕事に全部生かされている（飯干）

変わるもの、変わらないもの

野　ＭＭＵの学生は皆、素直ですよね。私が現在勤めている会社にもＭＭＵ出身の方が多くいますが、能力に関係なく、たとえ最初できないことがあっても一生懸命やって克服していきます。素直だからこそ、努力を惜しまないし、吸収していく力もすごいのだと思います。

佐　私の周囲の友人にも素直な人が多いですね。それと、学生の自己主張がはっきりしているところですね。小さい規模だからなのか、自分の意見を言う機会が非常に多く設けられていると感じます。ゼミでの討論も、自分の考えをしっかりと述べる学生が多かった印象がありますね。また、先生との距離が近いというのもあります。距離が近いからこそ、親しみやすく、信頼感が芽生えるのかなと思います。規模の大きな大学では、なかなか経験することができないことだと思います。

飯　ＭＭＵの良いところは自分のやりたいことができる環境があることですね。そういう環境があることが、いざ社会に出て行ったときに、人をまとめたり、指導したりする立場になる方が多い理由のような気がします。

辻　卒業生、在学生の皆さんのお話から、この20年間で大学は変わらずに在り続けているという気がします。逆に変わったものというのは何がありますか？

野　先生の研究室の本が増えたことかな（笑）。あと、はじめにも少し触れましたが、私の頃のゼミでは一から作り上げていくことが多かったので、その点は今と変わっているんじゃないでしょうか。情報機器が飛躍的に進化しているのもありますね。私の頃はまだウインドウズ98がありました。

小　確かに、この20年間で情報化が進みましたね。今のゼミ生はどのような研究をしているんですか？

築　昨年の先輩方の研究を引き継ぎ、今は「ぴ～すけ*」の普及に努めています。一人暮らしの高齢者や障がい者への日常の見守り、災害時の情報共有が誰でも簡単にできる支援システムのことですが、そのシステムをどのように広めていくかを考えています。

飯　そういえば私がゼミにいた頃も、防災という観点で研究をしていました。

辻　そうですね。野崎さん、飯干さん、小嶋さんがいた頃と、今の佐藤さん、築地さんの取り組んでいることは違うようにも思えますが、防災という観点では変わっていないですね。姿は変わりながらも、中身は変わっていないと言えます。先ほどの皆さんのお話にも通じますが、このＭＭＵに

＊ぴ～すけ…総務省が公募する情報通信技術分野の研究開発における競争的資金制度を受け、辻教授が中心となって開発したシステムで、一人暮らしの高齢者や障がい者への日常の見守りや災害時の情報共有が簡単に行えるもの。

「時間がいくらあっても足りない」…はたぶん人生においてずっと繰り返されると思う（佐藤）

昔いた学生も、今いる学生も、それぞれの時代を反映した気風がありつつも中身はあまり変わっていないような気がします。

ＭＭＵで学ぶ後輩へ

辻　では最後に、卒業生は後輩へのメッセージを、在学生は今日の座談会の感想をお願いします。

小　悔いのない大学生活を送ってほしいです。私自身、辻先生と共に学び、どんなわからないことがあっても資料等を調べて前進する姿勢や、プレゼンの方法、情報デザインの仕方等、この大学で一生懸命取り組んできたことが今の仕事に生かせていると、仕事の端々で感じます。だから、今自分がやりたいことを「あの時、やっておけばよかった」と後悔しないようにしてほしいですね。

飯　いろんなことを経験することが大事だと思います。大学で学んできたことって、今の仕事に全部生かされていると感じます。私自身、留学を通して自分とは異なる価値観や考え方を持つ人たちと話したり、それを経験することで、自分の価値観を形成できました。どんどん、やりたいことは怖がらずにやっていってほしいですね。

野　大学での勉強も、部活動・サークル活動も、もちろん遊ぶことも、何事にも本気で１２０…いや、１５０％の気持ちで、全力で取り組んでほしいですね！　本気で取り組んできたことがない人は、どうしても中途半端な感じといいますか、プレッシャーにも弱いですし、努力ができない方が多いです。なので、この４年間の学生生活は「本気で」生きてほしいです。

佐　「時間がいくらあっても足りない」と先輩方がおっしゃっていたことが印象的だったんですが、それはたぶん人生においてずっと繰り返されると思うんです。私は今、就職が決まって、その仕事に役立つことを考えて実践しているところなんですが、残りの大学生活も悔いのないように送っていきたいです。

築　そうですね、高校３年のころから今現在にかけて、後悔しては「次は絶対に後悔しないように」と必死になって、でもいざ自分を振り返ってみると、あれもこれもやっておけばよかったと焦っている自分がいます。でも、先輩方のお話を聞いて、悔いの残らないように何事にも懸命に取り組んでいきたいです。

辻　私もこのような座談会は初めてでしたが、とても楽しく、在学生にとっても良い機会だったのではと感じています。またいつか、卒業生を交えてお話ができるといいですね。今日は皆さん、本当にありがとうございました。

■記事　山本 麻育子（３年　社会学ゼミ）
古川 瑠衣（３年　中国文化論ゼミ）

KYO-SHiP
－MMU教員の頭の中－

MMUの教員が、講義では垣間見られない
「頭の中」を語ります

Vol.03

川瀬 隆千 教授
Professor Takayuki Kawase

社会心理学ゼミ

1961 年生まれ。専門は社会心理学。立教大学大学院博士課程単位取得満期退学。青森中央短期大学専任講師を経て、1993 年開学当初からMMUへ赴任。趣味は写真撮影。

Theme1 少し大人びた子供時代

子供の頃は、医者か小説家になりたかった。医者になりたいと思ったのは、「人助けをしたい」という思いがあったから。医者って自分が身につけた専門的な医療技術によって患者さんから「ありがとう」と言われる仕事でしょ。そして、小説家になりたかったのは、人間の裏側を描きたいという思いがあってね。

でもさ、人の裏側を書くにしても、全部がお話じゃつまらない。きっと科学的な根拠のある裏付けがあって、初めて現実味が出てきて面白いと感じるよね。

そういったことを考えると、今やっている心理学って、専門性を持って人に影響を及ぼしたり、科学的な裏付けを含んでいて、なんだか子どものころの夢と繋がっている気がするんだ。

Theme2 社会心理学との出会い

大学に入学するまでは、「心理学＝カウンセリングや臨床」というイメージを持っていたんだけど、それを覆してくれたのが大学１年生の時に出会った社会心理学だったんだ。

当時、同年代の若者がバイクに幅寄せして殺してしまった事件があって、その動機のなさや軽はずみさが不思議でしょうがなかった。マスコミの論調では、事件の原因は「若者の心の闇」として片づけられてしまう。そんな時に、人間の異常な行動を、心の中の矛盾する２つの認知を解消するプロセスとして分析する「認知的不協和理論*」を学んで、日頃の疑問の落としどころとしてぴったりはまったんだよね。これまで理解できなかった人間の裏側が見えた気がした。社会心理学の面白さを知ったのはこの理論に出会ったから、と言っても過言ではないね。

＊認知的不協和理論…例えば、喫煙者が喫煙の害を知りながらも「煙草をたくさん吸ってもし長生きしている人もいる」と喫煙を続けてしまう行動について、「煙草を吸いたい」「煙草は体に悪い」という矛盾した認知による不快な心理状態を解消するためのプロセスとして分析する社会心理モデル。

Theme3 所属のないつらさ

僕は基本的にその時々は悩んでいるのかも知れないけど、あんまり覚えていないんだよね（笑）。それでも、自分の人生の中で所属や肩書きがなかった時のつらさは覚えているな。修士課程を終えて博士課程に入るまでの浪人期間に結婚をしたんだけど、妻は働いていて、僕は宙ぶらりんの状態で博士課程受験の必須科目のドイツ語を猛勉強していた。この時期は、心理学を研究し続けたい思いとは裏腹に、「このまま続けて、自分が就ける研究職がなかったらどうしよう」といった不安もあってね。就職先を決めようと焦って、東京都や警視庁の心理職を受験して不合格になったりもした。その頃は、経済的な面での不安というより、やっぱり所属がない不安が大きかったなぁ。

Theme4 勉強するのは自分のため？

学生には、自分が「勉強する目的」を空間的・時間的な視点で広く捉えてほしいと思っているんだ。多くの学生は、勉強するのは「自分のため」と考えていると思う。でも、勉強するのは「世の中のため」じゃないかって思うんだよね。だから、「何のために勉強するのか」を空間的にもっと広く捉えてほしい。

そして、時間的な視点で言うと、20 代の頃って永遠に先があるように感じるけど、そうじゃなくて人生には必ず折り返し地点がある。その折り返し地点に立った時に、今度は自分のためだけじゃなく、「世のため人のため」に役に立ってもいいんじゃないかな。また、そういった発想を持てるように今から勉強しておけばいいと思う。人生は行きっぱかりじゃない、帰りもあるんだということをどこかで覚えていてほしいね。

Theme5 座右の銘は「真面目が一番！」

この言葉はね、「どんなことでも一生懸命頑張ればできる」と素朴に信じていることを、一言でまとめた言葉なんだよね。僕は1961 年、日本が著しい発展を遂げている時代に生まれたので、その時代の人間は基本的にすべてにおいて右肩上がりの発想なんだよ。星飛雄馬＊じゃないけど、「頑張ればできる」わけさ。そう信じているんだよね。この言葉は、過去の自分を振り返ってというより、未来に対しての前向きなメッセージなのかも知れないね。

＊星飛雄馬…アニメ「巨人の星」に登場する、常に目標に向かってストイックに努力する主人公。

「世のため人のために働く、という発想を持ってほしい」

■記事　冨永 彬佳（３年　行政論ゼミ）

世界へ漕ぎだせ！

視界よしっ！

vol.04
中国 / 蘇州大学
中国 / 苏州大学
和田 美紀子（4年　英米文学ゼミ）

１年時より活発な国際交流活動と中国語学習に取り組む一方で、ダンス部にも所属し多方面で活躍する。４年時に中国蘇州大学に１年間公費派遣留学。帰国後の就職活動では、グローバルに事業を展開する工業機器メーカーに内定を獲得。

公費留学までの道のり

「私は、グローバルなでしこになりたい。高い語学力や海外経験の豊富さだけではなく、日本人としての軸をきちんと持っていることが何より大切だと思うんです」

宮崎公立大学4年生、和田美紀子。中国蘇州大学への公費派遣留学生として選抜され、大学から中国語を学び始めたにもかかわらずHSK＊6級を取得。就職活動を経て大手工業機器メーカーへの就職を決めた彼女だが、それまでの道のりには数々のドラマが待ち受けていた。

彼女がMMUで中国語を学び始めたきっかけは、著しい経済成長に裏付けされる中国の将来性にあった。だが次第に、まるで歌を奏でているような中国語の「音」に魅了され、没頭していく。

1年生の春休みに中国蘇州大学への短期留学に参加。中国語のシャワーを浴び、「音」と「漢字」のパズルが結びつく心地よさを実感する。

2年生の冬には、蘇州大学応用技術学院で日本語授業のアシスタントを経験した。言葉の壁に苦しんだが、「通じなかった時には、ジェスチャーや一人二役の寸劇をしてでも伝えようとしていました。伝わらないもどかしさえも面白いと感じましたね」と振り返る。

＊HSK…日常中国語の応用能力を判定する中国政府公認の検定試験。

中国に多くの友人ができて、プライベートでも何度も中国を訪問するほど中国文化や中国人との交流に魅了された彼女は、MMUの蘇州大学公費派遣留学生を目指すようになる。しかし、3年生の夏に選抜試験を受験するも、結果は不合格。

「なぜ失敗したのかを振り返ってみると、当時は海外にばかり目が向いており、自分の日本人としての足元が固まっていなかったんです」

相手の言語や文化を理解するためには、他国の言語や文化への興味だけではなく、大前提として自国の文化に対する深い理解、すなわち「なでしこ」であることが必要である。この挫折から得た気づきによって、彼女は真の国際人「グローバルなでしこ」を目指すようになる。

4年生の夏、選抜試験に再チャレンジした。不合格から1年間、着つけや茶道を根本から深く学び直し、日本古来の伝統文化での「おもてなし」を身につけた。現地の言葉や文化を学びながら自国の文化を発信し、日中交流の架け橋となることが、留学の目的として明確になった。口頭試験の対策として、MMUの中国人留学生に発音の矯正を依頼し、1日何千回も練習を積んだ。図書館にこもり、一心不乱に筆記試験の問題をこなした。

「何としても合格したかった」

その結果、見事1年間の公費派遣留学の椅子をつかみ取る。

「かわいそうな子ども」

留学中のことである。和田さんは、東アジアや東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ、メキシコ、ロシアなど様々な国の人々が学ぶ海外教育学院のクラスに所属しており、クリスマス会が開催されることになった。

クラス委員をしていた彼女は、出し物の取りまとめを任される。クラスメイトは多国籍で、大学生だけではなく社会人や育児中の母親もおり、修学背景も多様である。一人一人の要望を募り、合意を形成して全員が楽しめる出し物を決定しなければならない。和田さんは、様々な立場の人に配慮した時間の組み方や出し物の内容に頭を悩ませ、一人で抱え込んでいた。周りに気を使い、うまく意思疎通が取れずに苦しんでいた彼女は、その様子を見かねた韓国人のクラスメイトから「かわいそうな子ども」と形容されてしまう。「好奇心旺盛で何事にも挑戦するが、手一杯になりすぎて、自分で転んで泣いている子どものようだ」というニュアンスである。

しかし、次の言葉で彼女は大きな学びを得る。

「言葉で伝えて。一人で察して一人で抱え込まないで。あなたが何かを伝えてくれるのを、クラスメイトは待っているのだから」

なでしこの互いに察し合う奥ゆかしさが、異文化間では通じない。「グローバルな環境で意思疎通を図るには、積極的に伝える態度が必要なんだ」

持ち前の積極性を取り戻し、自分の意見をクラスメイトに率直に伝えた。誰もが知っているAKB48や少女時代のダンスを出し物に取り入れるなど、斬新なアイデアが功を奏し、クリスマス会は成功裏に幕を閉じた。

学生記者による Extra Interview

記者　留学希望者へのメッセージをお願いします。

和田　留学できる条件がそろっているのであれば、ぜひ留学してもらいたいと思います。「自分がどうなりたいか」「どんなフィールドに立ちたいか」を意識し続けることが大切です。大学生という感受性豊かな時期に留学することで、将来の進路に役立つだけではなく、人間的にも成長できると思います。

記者　今年 MMU は開学２０周年ですが、和田さんにとって「２０」という数字は？

和田　私自身が２０歳の時が、中国とのご縁を深める転機の年だったと思います。中国の一般家庭にホームステイし、プライベートでも訪問してくなるような関係性ができました。このワンピースは、ホームステイ先のモモちゃんのお母さんから２０歳の誕生日プレゼントとして頂いたものです。

■記事　冨永 彬佳（3年　行政論ゼミ）

今彼女の瞳に映るもの

就職活動を終えた和田さんに、今後の展望を尋ねてみると、「自分が見てきた『生の中国』を日本国内に向けて発信し、草の根の交流を盛んにしたいですね」と目を輝かせた。

異文化交流の真髄が「国家間」ではなく「人間同士の関わり」にあると考える和田さんは、留学後にMMUの中国語講座の講師を務め、単に中国語を教えるだけではなく、受講生が中国に親しみを持てるよう、自身が留学中に収集した映像や写真を活用する等、留学経験をふまえて工夫を凝らす。

また、地域のFMラジオ番組でパーソナリティを担当し、中国人ゲストへのインタビューや穴場的な観光名所、おすすめ料理情報など、まさに「生の中国」を文字通り電波でも発信している。

就職活動の内定先は、搬送システムや保管システムを扱う工業機器メーカーで、グローバルに事業を展開している。「世界から高い評価を受けている日本の技術力を駆使し、国内外に貢献している企業だと考え志望しました。社会人になっても持ち前のチャレンジ精神を生かし、様々なことを吸収し続けたいと思います」

彼女の今後の活躍に期待したい。

しっぽり語る。 SHIPPORI

～片道20分圏内の小宇宙

20と深い関係がある3人が、20にちなんだ話題を絡め、20分圏内を語りながら歩いた、9月20日の様子を紹介します。

SPOT 2
宮崎県総合文化公園

県立の美術館・図書館・芸術劇場を併設した、緑豊かで文化の香り高い公園。公立大からは桜並木通りで一直線に繋がっています。

SPOT 3
宮崎神宮

神武天皇を主祭神とする神社。10月に催される宮崎神宮大祭は宮崎の風物詩。静謐な空間は、日常の喧噪を忘れさせてくれます。

MMU御用達の居酒屋。営業時間外にもかかわらず暖簾と提灯まで出してくださり、気さくに撮影に応じて頂きました。

MMU御用達の定食屋。安くてボリュームがあると大人気です。崎平さんのオススメは「チキン南蛮」「ナスの豚肉巻き」だそうです。

SPOT 1
丸平（居酒屋）

SPOT 4
味甘家（定食屋）

20年前20歳！ 赤澤 央臣 主査 企画総務課

今年でMMU勤続20年！ 山口 裕司 附属図書館長

崎平 結宇さん 2年 オーラル・コミュニケーションゼミ 今年で20歳！

崎平（以下、崎） 今日は本当に良い天気ですね。そう言えば、近くの幼稚園や小学校でも、運動会の練習をしている風景をよく見かけますよ。つい最近20歳になったんですが、その時いろいろ考えました。「これができなくなる、あれができなくなるって。その中の一つに、運動会もなくなったなあ、と寂しくなったのを覚えています。

赤澤（以下、赤） じゃあ、有志を募って総合文化公園でミニ運動会を開いたら？

崎 かなり参加者が集まりそうな気がしますね。

山口（以下、山） 教職員チームも作っていいんじゃない。

赤 大人げなく本気で勝ちにいきますけど（笑）。

山 それはどうかな。

赤 崎平さんはバスケットボール部ということですが、総合文化公園を走ったりしますか？

崎 部活ではないですが、友人と走ったりします。皆さん総合文化公園の中の施設には、よく来られますか？ 私はよく利用しているんですが、つい先日も県立美術館に展覧会を見に来ました。

崎 私はエレクトーンを3歳から習っているのですが、小さい頃に県立芸術劇場で発表会があって、舞台で弾いた思い出があります。

山 僕もこの間、娘と二人で県立芸術劇場に演奏会を聞きに来ましたね。

崎 赤澤さんは仕事柄、県立図書館にも行かれることがありますか？

赤 MMUの図書館の本が間違って県立図書館に返却された時に受け取りに来ますね（笑）。

山 そりゃ大変だ（笑）。

崎 赤澤さんはずっと司書をされてるんですか？ 前職はまったく違う仕事をしていました。

赤 その話、聞いてないなあ。

山 では、今度お酒の席でゆっくりと（笑）。

赤 私はそれをこっそり山口先生から流してもらうことにします（笑）。

崎 崎平さんもまだまだこれからいろいろなことが長い人生で待ってるよ。

山 私は今年、親知らずでなかなか大変な目に会ったんですが、よく考えると前厄なんです。宮崎神宮で早く厄払いをしてもらわないと。ただ、おかげで2kgほど痩せました。せっかくだから、20kgダイエットを目標にしましょうか。

崎 20周年だけに！ そんな無茶をしたら寿命が20年縮まりますよ。

「20」と言えば、思い出があります。推薦入試の面接の時に、「私もMMUと同じく平成5年生まれです！」って言いました。県外の大学のオープンキャンパスにも参加したんですが、MMUのオープンキャンパスが一番良かったので、「入学するなら、絶対にMMU」って決めてたんです。ちなみにオープンキャンパスで受けた模擬授業は残念ながら山口先生の講義ではなかったんですが（笑）。入学してからは、先生のお人柄に惹かれて先生の講義（政治学）を履修しました（笑）。

山 来年度から新カリキュラムも始まりますね。

崎 いろいろと変わる時期に在学して、大変ではあるけれど、いい経験をさせてもらっているのかなと思います。20周年という節目の年に大学にいることもできますし。

山 しかも開学の年にお生まれになった（笑）。こういうのを「縁」というんですよね。いい話だなあ。それに崎平さんは、そういう時期に大学広報誌にまで登場するわけだから、記念にもなるね。

崎 ありがたいことですね。きっと友人たちは「なぜ崎平が？」って思うはずです。

山 しかもイケメンに囲まれて（笑）。

赤 先生、悲しくなるんで止めておきましょう。

崎 今は「そのとおりですね！」って言うところですよね（笑）。

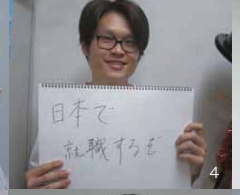
赤 さあ、いよいよ大学に戻ってきました。本当にお疲れ様でした。最後に「これは言っておかねば！」ということはありませんか？

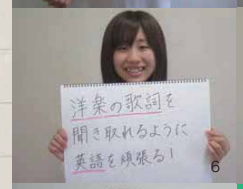
崎 神宮に行って思い出しましたが、私の名前「結宇（ゆう）」は、神社で伺った意見を参考にして付けられたらしいです。

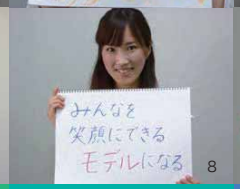
山 僕は「裕司（ゆうじ）」ですよ。

赤 私は息子の名前が「佑（ゆう）」です。皆さん、これからも「ゆう」繋がりということでよろしくお願いします（笑）。

■記事 志垣 賢次（4年 広告コミュニケーションゼミ）、上野 麻衣（1年）







MMU MEMBERSHiP

REAL VOICE

テーマ **私の夢は○○！**

未来に羽ばたけMMUの学生達よ！ということで、MMUの学生が胸に抱く将来の夢や希望について、リアルな声のお届けです！！！

【SPECIAL THANKS】

1. 水野 翔太さん 4年 英語教育学ゼミ **2. 安川 優季さん** 4年 英語教育学ゼミ **3. 有島 華重さん** 3年 大衆文化・出版文化論ゼミ **4. 都 嘉駿さん** 3年 情報社会論ゼミ **5. 日高 奈月さん** 3年 American Studies ゼミ **6. 三好 佐也加さん** 1年 **7. 徳田 佑さん** 1年 **8. 柳元 美紀さん** 4年 大衆文化・出版文化論ゼミ **9. 舛元 麻衣さん** 4年 大衆文化・出版文化論ゼミ **10. 朱 カさん** 交換留学生 大衆文化・出版文化論ゼミ **11. 坂本 芽さん** 2年 スポーツ・健康科学ゼミ **12. 与那覇 麗奈さん** 2年 American Studies ゼミ **13. 倉山 武文さん** 3年 英語教育学ゼミ **14. 高橋 慧多さん** 2年 オーラル・コミュニケーションゼミ **15. 上村 かすみさん** 4年 英語教育学ゼミ **16. 浦川 貢史さん** 2年 英語教育学ゼミ **17. 佐藤 巧さん** 4年 スポーツ・健康科学ゼミ **18. 冨山 統司さん** 1年 **19. 青木 沙弥さん** 3年 音声学ゼミ **20. 中村 菜乃花さん** 2年 オーラル・コミュニケーションゼミ **21. 眞壁 茜さん** 3年 英語学ゼミ **22. 杉村 拓海さん** 3年 英米文学ゼミ **23. 馬崎 信行さん** 3年 政治学ゼミ **24. 島倉 渉さん** 3年 英語教育学ゼミ **25. 福永 悠花さん** 2年 英語教育学ゼミ **26. 大迫 香菜さん** 3年 教育学ゼミ **27. 中山 未来さん** 3年 国際法ゼミ **28. 鈴木 公貴さん** 2年 スポーツ・健康科学ゼミ **29. 山本愛さん** 1年 **30. 前山 篤志さん** 2年 国際協力・地域経済ゼミ **31. 瀬戸口 千史さん** 1年 **32. 葉山 眞衣さん** 3年 国際協力・地域経済ゼミ **33. 北崎 琢磨さん** 3年 行政論ゼミ

■記事 柳井 沙帆（3年 大衆文化・出版文化論ゼミ）

広告コミュニケーションゼミ
presents

@MIYAZAKI
アットミヤザキ

今回のテーマ

MMU Students with Miyazaki

MMUの学生に聞く 宮崎地域テレビの実態！

皆さんは、「地域メディア」という言葉をご存知だろうか。田村紀雄氏の著書『地域メディアを学ぶ人のために』によれば、地域メディアは…

①特定の地域空間のみをサービス対象とする

②きわめて「地域社会限定的な」内容を発信する

③（全国区でない）地域資本によって経営されるという３つの概念があるという。

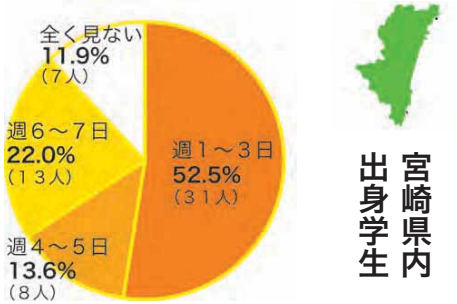
つまり、地方紙・ローカル放送・地方自治体の広報誌やミニコミ誌などを指す。また、地域メディアの持つ機能として、市民・住民の知りたい情報を必要な範囲内で詳しく知らせることができ、地域アイデンティティを高める役割も担うことが挙げられる。

広告コミュニケーションゼミでは、現在の若者のメディア離れに加え、民放が２局しかないという宮崎の独特なメディア環境の影響に興味を持ち、研究を始めた。「地域メディア」の中でも、「地域テレビ」（広告コミュニケーションゼミが命名）に着目し、MMUの１年生を対象に、宮崎の地域テレビをどのくらい視聴しているのかアンケート調査を行った。今回は、県内・県外出身学生別の分析結果を紹介したい。

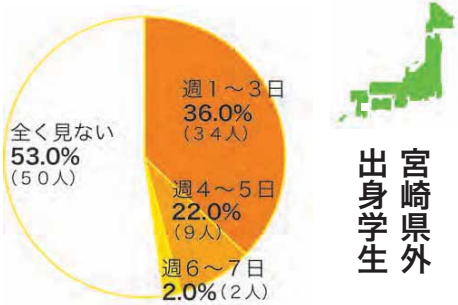
（参考文献）
『地域メディアの新展開―CATVを中心として』
林茂樹

アンケート配布日：２０１３年６月２５日
配布枚数：１７２枚／回収枚数：１５７枚／
有効枚数：１５４枚
対象者：MMU１年生

Q1 宮崎の地域テレビをどのくらい見てますか？



宮崎県内出身学生



宮崎県外出身学生

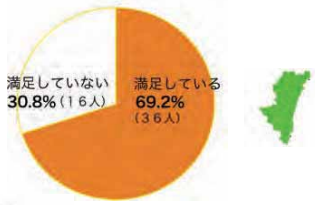
分析・考察

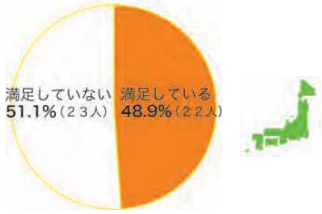
県内出身者の９割は地域テレビを視聴

最初に、地域テレビを週にどのぐらいの頻度で見ているのかを調査した結果、県内出身者と県外出身者で違いがみられた。県内出身者は、地域テレビを見ている割合が９割近くもあるのに対し、県外出身者は５割以上が全く見ていないという結果になり、県内出身者の方が視聴頻度が圧倒的に高いことが分かった。また、週６～７日というほぼ毎日の頻度で見ている割合が、県内出身者は県外出身者の約10倍となった。

この理由として、県内出身者の宮崎への愛着心が地域テレビへの愛着心にも比例して、県外出身者よりも視聴頻度が高くなるのではないかと考えられる。

Q2 宮崎の地域テレビに満足していますか？





視聴頻度の高さが、満足度の高さに影響か

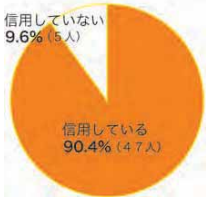
まず、県内出身者と県外出身者で地域テレビにどれほど満足しているかを調査した。満足度に関しては、県内出身者は県外出身者に比べて高いことが分かった。これは、県内出身者は県外出身者と比較して視聴頻度が高くなっているため、満足度が高くなっていると考えられる。では県外出身者の満足度はなぜ低くなったのか？　その理由として挙げられるのは、MMU1年生の中の県外出身者が宮崎に住み始めて約３カ月という短期間であり、宮崎の独特なメディア環境に慣れていないためだと考えられる。

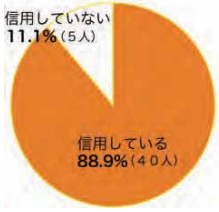
出身に関係なく身近な情報の必要性によって信用度は高くなる!?

次に、県内出身者と県外出身者で地域テレビをどれほど信用しているかを調査した。信用度に関しては、県内・県外出身どちらとも高いことがわかった。さらに今回の調査の中で、全国テレビと地域テレビの信用度を比較したところ、確実な信用を得ているのは地域テレビであることが分かった。また、グラフから分かるように地域メディアは県内・県外出身での差がほぼない。これは、地域テレビに対する信用度の高低には、視聴者の出身は関係ないということになる。

なぜ地域テレビに対する信用度が高くなるのか？　その理由として、林茂樹氏の著書『地域メディアの新展開－CATVを中心として－』によれば、地域メディアは、市民・住民の知りたい情報を必要な範囲内で詳しく知らせることができるという機能を持つといわれている。県内出身者はもちろん、県外出身者にとっても快適な生活を送るために地域情報は必要なものである。県内・県外出身どちらとも地域情報は身近な情報であり、その情報をもとに生活を送っているために信用度が高くなったのではないだろうか。

Q3 宮崎の地域テレビを信用していますか？





課　題

宮崎の地域メディアのこれからの課題として、宮崎の地域ならではの情報を発信しながら、県外出身者にとっても地域テレビがより身近な存在となるように地域番組をつくっていくことが必要になってくると考える。さらに、面白さや奇抜さを求めるのではなく地域住民に生活情報や身近な情報を提供するという役割を大切にすることが地域メディアの生き残っていく道なのではないだろうか。

まとめ

今回の分析では、宮崎地域テレビは、県内出身者がより多く視聴し、それによって満足度が高いことが分かった。また、信用度に関しては視聴者の出身に関係なく、身近な情報の必要性によって信用度は高くなることが分かった。この結果から地域テレビは、地域に対する住民の愛着や誇りを育て、その地域の住民であることへの満足感を得られるという効果をもたらす可能性があるのではないだろうか。

■記事　広告コミュニケーションゼミ生　一同

Moritsu

CIRCLE DE GOSHiP No.4

goxship= ゴシップ＝噂。
MMU の部活・サークルに関する噂の真実を調査。

今回の噂：
学生が中心になって市民講座を行っているサークルがあるらしい

前回の「日中文化交流促進会」に続き、「市民講座」という何やら高尚な香り漂うイメージを勝手に妄想しながら、もう1つのサークルの調査を開始した。今回は、「韓国文化研究会（略称「KBK」）」の部長である宮崎さんにインタビューを行った。

韓国文化研究会　部長
宮崎 光さん
3年　日本文学ゼミ

部長、語る…。

「学生が主体になって、25名の市民に韓国語を教えています。最初は李教授（文化人類学ゼミ）のゼミ生が始め、後にKBKがその活動を受け継ぎ、この講座を開講しています。サークルの部員は約25名。また講座では、韓国からの留学生も補助講師として教えています。

前・後期計20回で、前期は韓国語の基本を学び、後期は文章や挨拶など発展的な内容になっています。また、今年度からの試みとして、前年度から続けて参加されている方々のために会話クラスを設けています。開講時間は毎週月曜日の午後6時から7時半です。1年生は大学で韓国語の授業を受け始めたばかりなので、教えることで自分たちの復習をする場にもなっています。

初級クラスでは、大学で使用している教材を利用していますが、中には難しい内容も含まれていますので、他の教材も利用して分かりやすく伝えるように努めています。会話クラスでは、旅行で使えるフレーズなどを教えています。また、歌謡曲を利用して教えることもありますが、その際は聞き取りやすいように、テンポがゆっくりとしたものを選曲するようにしています。毎回授業の最後に、受講生の方々に感想を書いて頂き、更に充実した講座になるように心懸けています。

市民講座の様子

噂の真相

部員にはK—POPやドラマを通して韓国に興味を持った人、韓国に友達がいるため韓国語を勉強したいという人、韓国語を使った仕事をしたいと考えている人、更には、大学の教員として韓国語を教えることを希望している人も。公費や私費で韓国に留学している部員もいた。

現在、講座の受講生は25名ほどだが、実際の応募総数は40名ほどということで、より多くの方を受け入れ、開講日を増やし、内容の充実を目指しているようだ。更なる発展を遂げるKBKの今後の活躍に注目したい。

■記事　上野 麻衣（1年）
志垣 賢次（4年 広告コミュニケーションゼミ）

連続リレーエッセイ　その3

いいだしっぺ

歴史ドラマから学ぶべきもの

◆執筆
梅津 顕一郎 准教授
（情報社会論ゼミ）

1962年福島県生まれ。1993年中央大学大学院博士課程後期単位取得満期退学。中央大学非常勤講師、呉大学准教授を経て2008年から現職。専攻は社会学。

「あまちゃん」から「半沢直樹」へと、今年はどうも「見せ方」の巧いドラマが大当たりのようだ。しかし天邪鬼な自分としては、正直、あまり興味がない。ドラマの作り方は確実に進化した。それはいいことだと思う。だが、そんな時代だからこそ、個人的にはもっと素直に物語自体と向き合い、深く読み込むような経験がしたいのである。

アナクロ極まりない私にとって、現在視聴率確保に悪戦苦闘している不人気大河ドラマ（笑）、「八重の桜」は、逆にツボであった。

「八重〜」で描かれる世界観は、とにかく重く暗い。そしてストーリー展開は、いまどきの視聴者がわくわくするポイントをことごとく外している。しかし、それでいいと思う。世界観が重く暗いのは、敗れ去りし者の側から描いた物語である以上、避けられないことだろう。また、短絡的な歴史観に陥らずに、幕末を生きた人たちのリアルを重厚かつ多面的に見せる以上、どうしても受け取る側である視聴者自身が葛藤することになる。そこには「見ることのカタルシス」などあり得ない。

物語は幕末から明治にかけての会津と京都を舞台としている。主人公の八重は、会津藩の鉄砲指南役・山本権八の娘として生まれ、のちに再婚相手の新島襄とともに同志社大学設立に尽力した実在の人物。おそらく今日の「肉食系女子」を百年以上先取りした、豪快な女性である。綾瀬はるか演じる物語上の主人公は、多少の創作もあるものの、八重の逞しさあふれる魅力を、よく表現している。

しかしこのドラマ最大の見どころは別にある。吉川晃司演じる西郷隆盛が、非常にカッコいいのだ。今回の話では、役割上どうしても悪役に回らざるを得ないものの、常に大局に立って物事をとらえる人物として描きられている。会津から見れば、理不尽極まりない行いを重ねる西郷だが、それはあくまで歴史を動かすために、敢えて悪を引き受ける行為なのである（そしてそれゆえに西南戦争の敗北という過酷な運命も、淡々と潔く受け入れている）。少なからぬフィクションはあるにせよ、そこで描かれるのはあくまで「歴史の重み」と、それに対峙する人間の「真実」であり、単純な敵味方関係などではない。

もう一つ強調しておきたい点がある。それは劇中頻繁に出てくる「ならぬものはならぬ」という会津藩の教えについてである。この言葉は、これまで会津独特の保守主義、ともすると視野の狭さを表す言葉のようにとらえられてきた。しかし、実際には劇中の八重も言うように、「良いものは良い」とセットとなって、どんな状況にあろうと理にかなった形で「正しいこと」を見出していこうとする、良い意味での「合理主義」を内包した思想だったのである。明治以降の歴史のなかで、歴史の表舞台から淘汰された、近代化の「別の選択肢」は数多い。それらをもう一度掘り起こし、「熟考」によって、今の時代に再構築することが今必要なのではないだろうか。そのような現代への問題意識も、このドラマは投げかけている。

最後になるが、実は私自身八重とは同郷（福島県会津若松市）であり、会津側から見た明治維新観についても、子供のころから嫌というほど聞かされてきた。しかし、このドラマが単純な「会津からの善悪二元論」にならなかったことを、非常に幸運に思う。今、現代人に必要なのは、「熟考」であり、「倍返し」などではないのだから。

MMU NEWS PLUS

H25.3〜H25.9

Index

3 March
25日 卒業式を挙行

4 April
1日 第2期中期計画期間に入る
新理事長・学長就任
3日 入学式を挙行
5日 新入生歓迎会を開催
26日 MMU生11名に「宮崎市明るい選挙推進協議会常任委員」が委嘱される

5 May
18日 スポーツデイを開催
29日 韓国からの短期研修生が西池小を訪問

6 June
1日 開学20周年記念式典を挙行
8日 うみがめのたまご交流会を開催
18日 学生によるゼミ説明会を開催
29日 プチ★キャンパスガイドを開催

7 July
11日 芸術祭を開催（〜12日）
28日 第3回凌雲杯中国語コンテストを開催

8 August
2日 宮崎市長と本学学生の意見交換会を開催／英国・スターリング大学に学生8名を短期研修生として初めて派遣（〜9月5日）
4日 キャンパスガイドを開催
8日 交換留学生による論文発表会を開催

9 September
21日 プチ★キャンパスガイドを開催

Pickup News

8/2 宮崎市長とMMUの学生の意見交換会を開催

宮崎市秘書課広報広聴室の主催による、戸敷市長と本学学生7名による意見交換会「みやざきアイアイミーティング」が本学で開催されました。

「若者とまちづくり活動」をテーマに、ボランティアやイベント参加等、さまざまな形でまちづくりにかかわってきた学生から多くの提案がなされ、およそ一時間にわたって熱い意見交換が行われました。

8/2 スターリング大学に学生を正式に派遣

6月1日に挙行された開学20周年記念式典の中で調印された、英国・スターリング大学との学術交流協定に基づいて、初めてとなる「異文化実習」に学生8名を派遣しました。学生たちは、約1カ月の研修で、スコットランドの文化や習慣を学び、貴重な異文化体験を行いました。

スターリング大学は、教育環境が非常に優れていて、日本との関わりも深く、将来にわたってMMUの心強いパートナーとなっていただけると確信しています。

学生記者紹介

vol．3から参加し、今回も取材や会議を通して「ものづくり」を経験することができました。この熱い想いを胸に私は社会に試されてきます。
古川 瑠衣（3年　中国文化論ゼミ）

vol．3に続いて今回も特集記事を担当させていただきました！　20周年を迎えてさらにパワーアップしていくMMUを感じてくだされば幸いです。
山本 麻育子（3年　社会学ゼミ）

「広報誌をより深いものにしたい」との思いがありました。インタビューに協力してくださったお二人と職員の小林さんには感謝の気持ちでいっぱいです。
冨永 彬佳（3年　行政論ゼミ）

開学当時の先輩にお仕事や大学に対する思いをうかがえたことは現役学生として励みになりました。今回も、楽しんでいただけると嬉しいです。
渡邊 美紗（3年　情報社会論ゼミ）

今回初めて製作に携わらせて頂き、企画・編集共にとても貴重な経験になったと思っています。ご協力頂いた皆さん、ありがとうございました！
栁内 沙帆（3年　大衆文化・出版文化論ゼミ）

開学20周年という年でもあり、MMUの歴史を知る良い機会ともなりました。これまでのMMUの魅力と、これからのMMUの可能性がお伝えできれば嬉しく思います。
志垣 賢次（4年　広告コミュニケーションゼミ）

しっぽり語るべきところを歩いちゃいました。制作に携わり、初めてこの冊子に込められた温もりを感じることできました。感謝。
上野 麻衣（1年）

編集後記

自画自賛もしくは厚顔無恥、ときどき編集後記

自画自賛。

『広辞苑（第六版）』には、「①自分の描いた画に自分で讃をすること。自画讃。②転じて、自分で自分のことをほめること。手前味噌。」とある。今回の編集後記は、まさに「自画自賛」と化しそうである。いや。化します、と最初に断言しておこう。

私たちが『MMU　SHiP』の中で描いた「宮崎公立大学生の今」という「画」に対して、作成に携わった私が「編集後記」という名の「賛」を付ける。しかも、今号では作り手として関わっただけでなく、語り手として颯爽と（!?）登場してしまった(P11)。それを褒めようというのである。もはや「厚顔無恥」と謗られても致し方ないだろう。しかし、それでもなお、私は自画自賛するのである。

毎号のことながら、学生たちは斬新な企画案で職員の度肝を抜き、熱心に取材し、豊かなセンスで誌面をデザインする。職員は知恵を絞り出して学生にアドバイスをし、社会人経験で培った瞬発力と突破力を時に発揮して学生をリードする。そんな見事な共同作業で出来上がるのが『MMU　SHiP』なのである。そして、創刊してから今号で第4号。広報誌らしからぬ特集企画とマンネリを感じさせない定例企画で、「宮崎公立大学生の今」を読者の皆様にお届けしたいという熱い想いは全号共通である。「自画自賛するな」という方が無理な話である。かなりハードルを上げ過ぎたようだと思っていたら、字数が丁度尽きた。

『MMU　SHiP』をご覧になった方たちが、MMUと何らかの繋がりを持ち、MMUと共に光り輝く未来の画を描いてくださることを祈りながら。そして、そんな皆様が自画自賛しても恥ずかしくないようなMMUとなるよう、日々励むことを肝に銘じつつ、筆を置こう。

■担当　赤澤 央臣（企画総務課 図書館）

宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP』vol．4はお楽しみいただけましたか？
読者の皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております！　右記のEメールアドレスへお送りください。>>>

Eメールアドレス
mmu-ship@fc.miyazaki-mu.ac.jp

宮崎公立大学　広報誌
MMU SHiP vol.04
2013年10月発行

未来のcompass

社会で活躍するMMU卒業生に当時の学生生活や社会人としての近況を聞きました。今年度はMMU開学20周年ということで、1期生の卒業生にインタビュー

宮崎日日新聞社
大谷（おおたに） 公也（きんや）さん

平成8年度卒業生
広告計画ゼミ（当時）

生みの苦しみを愉しむ。

記者（以下、記）　現在の仕事について、教えてください。

大谷（以下、大）　宮崎日日新聞社の広告局広告部で、新聞広告の営業・企画をしています。どういった広告にするか、また新聞のどの面に掲載するかということを広告主や広告代理店の方と打ち合わせをして決めていきます。お客様のニーズを満たすために、その要望に沿うだけでなく、私たちから効果的な掲載方法をご提案することもありますね。

記　広告の仕事に就いたきっかけは何ですか。

大　学生時代にテレビ局のアルバイトで情報を伝える仕事を経験して、マスコミ業界に興味を持ったのが今の仕事に就いたきっかけです。もともと、短い文章や見た目のインパクトで、ぐっと人の心を惹きつける広告に興味を持っていました。MMUでは広告計画ゼミに所属し、広告会社に長く勤めた経験のある先生から、広告に関することだけでなく、仕事にも通じる姿勢を教えていただきました。

記　MMUで学んだことが、仕事に生きているのですね。

大　はい。実際に就職してからは、営利目的の広告だけでなく、社会貢献活動の一環として人の心に訴え行動してもらうような広告を手掛けたり、今年の5月に『こども新聞』発行一周年を記念した企画に携わりました。この企画では、子どもたちが書いた手書きの記事やイラスト広告を、そのまま紙面に掲載しました。手書きの記事を紙面に載せるのは初めての試みでしたが、子どもたちや広告主の方、読者の方、そして私たちも楽しめるものが出来上がりました。今後も、こうした紙面作りをしていきたいですね。

記　開学当初の様子を教えてください。

大　前例がないので、誰かが何かをやらないと何も始まらないんです。一人一人が役割を持って、前向きな姿勢で取り組んでいましたね。例えば、サークルを立ち上げる際には顧問の先生を探さなければなりません。どの先生がどんな特技を持っているのか、事務局の方が教えてくれたり、先生方からも聞いたりしていました。学生、事務局、先生が一体となった活動を行っていましたね。事務局の方や先生方が親身になって悩みを聞いてくれたので、密接な関係を築くことができました。また凌雲祭（MMUの大学祭）では、名前を何にするか、から決めました。生みの苦しみというか、先輩がいないので好き勝手やってきたというか、自分達で切り拓いていたように思います。自由に、作り上げていく楽しみがありましたね。そういえば、大学カラーの法被も自分達で作りました。

記　法被は今の学生達も使っています。

大　本当ですか。それは嬉しいですね。

今でも時々、先生方と会う機会があり「開学当初の学生は元気が良かった。今の学生はおとなしい」と言われることがあります。前者はありがたく受け止めますが、後者はちょっと違うのかな、と思います。6月の開学20周年記念式典で今の学生と接する機会があったのですが、今の学生はおとなしい、というより洗練されている印象があります。今までの歴史をしっかり受け継ぎ、それらを無駄なく最適化できているなと思いました。その上で、新しい試みに臆することなく取り組むことができている。頼もしいですね。

記　後輩へのメッセージを、お願いします。

大　学生生活を、仲間と楽しく、一生懸命に送ってほしいと思います。大学で出会った仲間と、何か面白いと感じたことがあれば、ぜひ楽しく取り組んでほしいです。

私のモットーは「みんな仲良く」と「仕事だったらけんかをしてもいい」です。仲間と何かに取り組むとき、話し合いの中で対立することもありますが、それは考え方の違いに留めて人間関係にまでは持ち込まないようにしましょう。みんなが楽しくやっていこうという心構えでいれば、人間関係も仕事もいい方向に進みます。仲間とは切磋琢磨の関係を築いてください。

こども新聞と
「アイデアが実際に紙面という形になる喜び、そして読者の方に見て頂く喜びを感じるときは、この仕事に就いて良かったと思います」（大谷）

■記事　渡邊 美紗（3年 情報社会論ゼミ）

宮崎日日新聞社 株式会社

1940年（昭和15）年11月25日、県内日刊9紙を統合して日向日日新聞を創刊。1961（昭和36）年1月1日、宮崎日日新聞に名称を変更。発行部数は21万4千部、市場占有率65.8％（2013年6月現在）。東京、大阪、福岡を含め、県内外に16の支社支局を持ち「読者と共感、県民と共感」を方針に地域に密着した報道、広告、事業、顕彰を展開している。新聞のほか、『きゅんと』、『きゅんとplus』、『RIO』、『らぴあ』等の生活情報紙も発行。

〒880-8520 宮崎県宮崎市船塚一丁目1－2
電話：0985(20)2000　FAX：0985(20)4820　URL：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/
発行者　金丸 倫二